利尻研究 (22): 23-25, March 2003

利尻島における鳥類の新分布および稀少種の記録 (2)

田牧和広 [1)]・杉村直樹 [2)]・小杉和樹 [3)]・佐藤雅彦 [4)]

〒 097-0211　利尻富士町鬼脇字清川 [1)]
〒 097-0011　北海道稚内市はまなす 1-7-1-1 [2)]
〒 097-0401　北海道利尻郡利尻町沓形字富士見町 [3)]
〒 097-0311　北海道利尻郡利尻町仙法志字本町　利尻町立博物館 [4)]

Rare Visits and Newly Recorded Birds from Rishiri Island, Northern Hokkaido (2)

Kazuhiro Tamaki[1)], Naoki Sugimura[2)], Kazuki Kosugi[3)] and Masahiko Satô[4)]

Kiyokawa, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan[1)]
1-7-1-1, Hamanasu, Wakkanai, Hokkaido, 097-0011 Japan[2)]
Fujimi-cho,Kutsugata,Rishiri Is.,Hokkaido,097-0401 Japan[3)]
Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan[4)]

利尻島には 255 種の鳥類の飛来記録があるが（小杉，2000），毎年のごとく新たな種の飛来の観察がされており，その種数は 2002 年現在，約 270 種ほどになると考えられている．筆者らはこれまでに報告されていなかった３種とその飛来が非常に稀な１種について観察を行うことができたのでここに報告する．観察記録は，観察場所，発見年月日，発見者，個体数の順に記し，和名および学名については，日本鳥類目録（日本鳥類目録編集委員会，2000）に従った．なお，利尻町立博物館鳥類標本の精査をしていただいた今野　怜氏（帯広市）に心から感謝したい．

コクガン（図１）
Branta bernicla (Linnaeus, 1758)

利尻富士町字富士岬，2002.x.27，田牧和広・佐藤雅彦・佐藤里恵・小松和恵・小倉節子，１；利尻富士町字富士岬，2002.x.28，佐藤雅彦，１

利尻島ではこれまで記録がなかった種である．本個体は，富士岬地区の岩場の多い海岸の岸より約 10 m離れた沖に，シノリガモ，ウミアイサなどと遊泳しているところを筆者らの一人である田牧が発見した（図１）．観察日は波が高い時化の日であったが，首は短く，体は黒色で，喉，脇，下腹部，下尾筒が白いことが確認でき，喉の白斑が微かであることと雨覆の羽縁が白色であったことから，若鳥と思われた．観察中は，岸より 10 m～ 50 mを遊泳しながら移動し，海藻らしきものを口にはさむ姿も見られた．また，時折，飛び立ち，上空 10 m程の高さを飛翔し，100 mほど離れた海上に移動をしたが，波の荒い沖には移動しなかった．その後の観察で二日間，同じ場所に同じ個体がいることが確認されているが，10 月 30 日には確認されなくなった．時化を避けて，一時的に飛来した個体と思われる．

シロハヤブサ（図２）
Falco rusticolus Linnaeus, 1758

利尻富士町字南浜，2000.xii.28，田牧和広，１（中間型）；利尻富士町字大磯（ウミネコ繁殖地），2001.iv.16，杉村直樹・佐藤雅彦・井関健一，1

（淡色型）；利尻富士町字雄忠志内，2002.i.16，田牧和広，1（淡色型）；利尻町沓形字神居，2002.ii.23，佐藤雅彦・佐藤里恵・清水ゆかり・小杉和樹，1（中間型）；利尻富士町鴛泊字大磯，2002.xii.24，佐藤里恵，1（中間型）；利尻町沓形字神居，2002.xii.24，佐藤雅彦・小松和恵，1（中間型）；利尻町沓形字神居，2003.i.1，小杉和樹，1（中間型）

これまでも目撃例はあったが，報告されることがなかった種であり，近年の観察例を以下に報告する．

2001 年 4 月 16 日，北海道環境科学研究センターが主体的に行うウミネコ移動分散調査の準備として，センター研究職員ら 5 名とウミネコ捕獲用箱わなの設置作業を行っていたところ，北東方面上空からゆっくりと近づくシロハヤブサの淡色型を杉村が双眼鏡で確認した．この個体は上空を通過後ウミネコが群れる海岸の磯場付近へ移動し，まもなくウミネコが一斉に飛び立ったが，特段ウミネコを襲うわけでもなくそのまま群れ近くの上空を南西方面へ飛び去った．

また，2002 年 2 月においては，第一神居の海岸付近の岩に留まっている中間型の 1 個体が佐藤ほか 3 名によって観察された（図 2）．その後約 3 時間半に渡り小杉が同じ個体を観察したところ，何度目かの岩からの飛翔後，一端見失うものの，海岸付近の別の岩場において仰向けにされたウミスズメ類に馬乗りとなっている同個体を見つけた．その個体は 10 分ほど警戒してから羽毛を引き抜き，嘴を真っ赤に染めながら 40 分ほどかけて餌を食べた後，高い岩場に移動した．その後，小杉が現場に向かい確認したところ，捕食されていたのはウミガラスであった．同年 12 月にも中間型 1 個体が同じ場所で観察されており，やはり海岸でウミスズメ類を捕食している姿が確認されている．

ウズラ
Coturnix japonica Temminck & Schlegel, 1849

利尻町沓形字神居，2002.xi.3，小杉和樹，1；利尻町沓形字緑町，2002.xi.15，金田幹男，1♀

利尻島におけるウズラの観察は，藤巻（1995）によって初めて報告され，観察が行われた 1961 年以来，利尻島への飛来は全く確認されていなかった．そのため藤巻（1995）は，『この種が最近になって

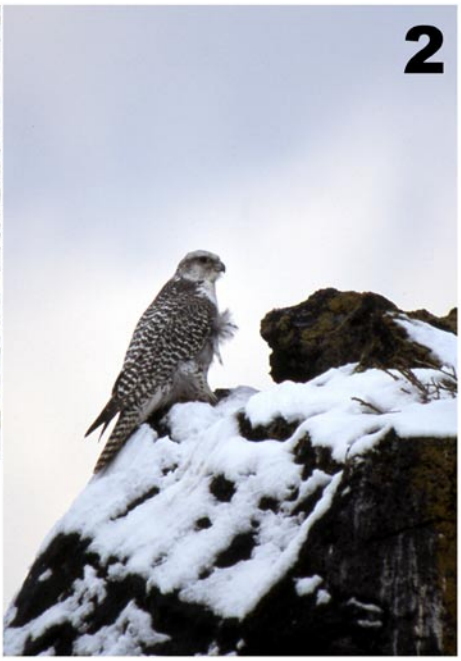

図 1．コクガン（2002.ix.27）．Figure 1. *Branta bernicla*
図 2．シロハヤブサ（2002.ii.23）．Figure 2. *Falco rusticolus*

非常に少なくなったか，または渡来しなくなったことを示唆するものであろう』と記述している．小杉が 2002 年 11 月 3 日に 1 個体を神居の林道にて観察した後，11 月 15 日に金田幹男氏（利尻町沓形在住）が自宅の庭にうずくまっているウズラを発見し，保護した．衰弱していたことと頭部および左翼を痛めており，利尻町立博物館で飼育を行うこととなった．本個体は喉が白いため♀と判断した．

ハリオシギ
Gallinago stenura (Bonaparte, 1830)

利尻町仙法志字御崎，1996.viii.5，K. Hoshita，1

1996 年に死亡個体が星田氏によって拾われ，利尻町立博物館に届けられた．当初，オオジシギと同定されていたが，1999 年に今野　怜氏が同館の標本調査を行った結果，本種と改めて同定された．標本番号は RTMB73 で，仮剥製標本として同館にて保管されている．本種も利尻島ではこれまで記録がなかった鳥である．

引用文献

藤巻裕蔵，1995．利尻，礼文両島における鳥類観察記録．利尻研究，(15): 25-30.

小杉和樹，2000．利尻島における月別鳥類出現リスト．150-155 pp．寺沢孝毅（編）．北海道　島の野鳥．北海道新聞社．札幌．

日本鳥類目録編集委員会，2000．日本鳥類目録．改訂第 6 版．日本鳥学会，京都．345 pp.